

| 令和元年度第2回 奈良市環境基本計画推進会議の意見の概要 | |
|--|---|
| 開催日時 | 令和2年2月7日（金）午前10時00分から11時30分まで |
| 開催場所 | 奈良市教育センター 8階 多目的講座室 |
| 意見等を求める内容等 | 1、「奈良市環境基本計画（改訂版）中間見直し」進捗状況について 2、奈良市環境基本計画の改訂について |
| 参加者 | 出席者 6人 ・ 事務局 3人 |
| 開催形態 | 公開（傍聴人 2人） |
| 担当課 | 環境部 環境政策課 |
| 意見等の内容の取りまとめ | |
| <p>《意見を求めた内容及びそれらに対する意見等》</p> <p>1、「奈良市環境基本計画（改訂版）中間見直し」進捗状況について</p> <p>「奈良市環境基本計画（改訂版）中間見直し」進捗状況について、【資料1】「奈良市環境基本計画推進会議分野別施策指標評価コメント結果」をご確認いただいた。本資料は、推進会議参加者の皆様からいただいた評価コメントをとりまとめたもので、環境審議会において報告、承認をいただき、担当各課へフィードバックした。今後、評価結果を年度報告書「奈良市の環境」に掲載し、環境審議会にて審議・承認を得たのち、公表する予定となっている。</p> <p>続いて、来年度の評価方法について、来年度も今年度と同様の評価方法で進めていきたいと考えている。各担当課の自己評価をふまえ、推進会議参加者の皆様へは7月頃に評価コメントシートの作成をお願いする予定であるため、よろしくお願ひしたい。</p> <p>○質疑・意見の要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度の評価方法はこのままで良いと思う。しかし、評価結果において現状維持が多いが、未来のための金曜日(Fridays For Future)として、より強い気候変動対策を訴えた若者の抗議活動が活発になっている状況の中、このままで良いのかという危機感を感じている。 ・評価コメント及び担当課の意識関心が報告書にきちんと反映され、次の計画につながっていくのかという見通しも含めてどのように考えているのか。 <p>⇒来年度から環境基本計画改訂に入るので、それらも踏まえて次期環境基本計画に反映できればと考えている。若者世代などあらゆる世代を巻き込んでいく仕組みができるよう検討していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガス排出量について、電力会社の電源構成により排出係数が変化するため、市民の節電の努力が目に見えないのが悩ましい。 | |

- ・温室効果ガス排出量とエネルギー消費量の二本立てで評価を行った方が、市民や事業者の努力が正当に評価されると考えられる。
- ・現在の評価方法は良いと思うし、進捗状況が矢印で見やすくなっているのも分かりやすいと思う。しかし、評価結果がフィードバックされて次年度の予算化につながるのかについては疑問を感じる。現在の指標は多すぎるため、次期計画では5, 6個程度に絞り込まないと、きちんとしたフィードバックはできない。より実践的なものとするために、市民や事業者も動くような指標を設定しなければいけないと考える。
- ・中間見直しで増えた指標もあり非常に多くなっている。次期計画改訂では、スクラップアンドビルドをしながら、且つこれからの時代に必要な指標を選択して、多くの方々に響くような指標を設定する必要がある。
- ・奈良市総合計画審議会に参加し、断熱を高めれば健康寿命が延びて社会保障費が減るため断熱が重要だと訴えても、断熱を高める政策をする担当課がないのが現状である。結局はトップが重要だと思わなければ予算がつかない状況である。
- ・政策を実行するためには、国などの財源を使うのも一つの方法である。また、企業と連携するなど、柔軟性を持って対応できるような組織づくりが重要である。
- ・市民は家庭の断熱が健康を守ることに繋がるといった情報にあまり触れていないと思われる。市として情報発信は出来ると思うし、情報を伝えるという役割を担う重要性を持っていると考える。
- ・地球温暖化に対する危機感よりも、個人資産である住宅に断熱改修としてお金をかけることの方が市民にはハードルが高いと思われる。
- ・カーボンプライシング（二酸化炭素に価格を付け、企業や家庭が排出量に応じて負担することで二酸化炭素の排出削減を促す）のように、得するような何かがあれば進むのかもしれない。市民の行動変容を促すような工夫を取り入れた施策を行政が進めてほしい。

<まとめ>

上記のような意見が出され、来年度は引き続き現在の評価方法を継承して実施することで承された。さらに、次期環境基本計画においては指標を精査し、目標に対して担当課がどのように取り組んだか自己点検・評価できるような評価方法を検討するよう議論がなされた。

2、奈良市環境基本計画の改訂について

奈良市環境基本計画の改訂について、まずは【資料2】「環境基本計画の改訂に向けて」の説明を行った。奈良市環境基本計画は1999年3月に第1次計画を策定し、2012年3月に第2次計画である改訂版を策定、2016年度に中間見直しを行った。第2次計画の計画期間が2021年度（令和3年度）までとなっていることから、令和2年度から3年度にかけて改訂作業を進めていく。改訂に当たっては、これまでの施策の成果や課題を踏まえ、国の「第五次環境基本計画」及び「気候変動適応計画」に沿った形で、「奈良県環境総合計画」、「奈良市総合

計画」との整合性を図り、SDGs の考え方も活用しながら、奈良市の特性に応じた計画を検討していく。SDGs と環境との関わりについては、【参考資料】に出している他都市の事例をご参考いただきたい。【参考資料】は、「今年度及び昨年度の SDGs 未来都市選定都市一覧」、「奈良県内で SDGs 未来都市に今年度選定された生駒市、三郷町、及び昨年度選定された十津川村の事業概要」、SDGs の考え方を環境基本計画に取り入れて平成 30 年 12 月に策定された「第 3 次堺市環境基本計画（概要版）」である。

次に、【資料 3】「第 3 次奈良市環境基本計画策定工程表（案）」について、令和 2 年度にアンケート調査、市民ワークショップを実施し、課題抽出、基本方針の検討を行い、令和 3 年度に素案の作成、施策の検討を行い、パブコメを実施し、計画策定の予定となっている。市民ワークショップは市民の方の声を聴く場として開催したいと考えており、推進会議参加者の皆様にもワークショップへのご参加をお願いしたいと考えている。

最後に、【資料 4】「第 2 次福津市環境基本計画ループリック（案）サンプル」について、福津市環境基本計画にループリック評価が取り入れられていることから、昨年度から福岡県福津市の担当者に伺っていたところ、今年度中にループリック評価表を作成し、来年度から評価を実施する予定であるとのことである。ループリック（案）のサンプルをいただいたので、本市において来年度以降、具体的な評価方法を検討していく参考になればと考えている。

○質疑・意見の要旨

- ・SDGs 未来都市はいつまで踏襲されるものなのか。

⇒いつまでかは不明だが、2020 年度の募集が 2～3 月頃に実施される。未来都市に選定されるには、具体的な SDGs 施策を実施していることが必要になるため、奈良市の現状で応募は難しいと思われる。過去に選定された都市はエネルギーを中心軸にしている自治体が多いように見受けられる。地方創生に SDGs を取り入れて活用していくことが国の大きな目標であることから、次期奈良市総合計画には SDGs を取り入れるとは聞いている。環境基本計画において何を軸として SDGs を推進していくのかについては、今後検討が必要であると考えます。

- ・SDGs は環境、経済、社会の統合的向上を目指すものであることから、環境基本計画＝SDGs ではないのでなかなか難しい。

・目玉をどこに置くか何をめざすか決めるのは難しいと思うが、宣言するという方法もあると考える。脱炭素やエネルギーなど様々な宣言があるが、宣言することによる効果はあると思う。

・本当に世界中において宣言という方法をとっているのか疑問に思う。それぞれの自治体やコミュニティがそのような観点を取り入れて活動し、結果として SDGs につながる生き方を示しているものなのではないかと思う。環境基本計画において目玉にするものが結果として SDGs につながっていることの説明は必要だと考える。

- ・昨年度、SDGs 未来都市に選定された十津川村の場合は課題を解決するためということが明

確であった。課題を整理して実行することで結果的にこうなった。奈良市の場合は人口も多く、東西に幅広いため地域の特性が異なるので難しいと思う。

⇒市全体の課題を洗い出すことは環境基本計画ではできないが、環境側面に関する課題を洗い出し、その中で SDGs の要素をどのように取り入れていくのかということを検討できればと考えている。指標については、前回の「環境基本計画（改訂版）」は総合計画を踏襲し、1つの施策に1つの指標をという形で策定された。しかし、指標にするものが難しい施策もあることから、第3次環境基本計画の改訂においては、施策に取り組んでいるということが大事なものと現状維持が大事なものなど、数値として出されないものをルーブリックなどにより評価できる仕組みが作れたらと考えている。

・ルーブリックは自己点検、自己評価のための評価表であるため、評価される側が作るものである。評価する側もされる側も主体であり、お互いに均衡点を考えて評価表を作成することにより、主体的な学びを形成していくための手段である。評価方法としては、毎年、評価項目にどこまでアプローチできたか、目標値までのどのレベルなのかをお互いに認識することができる。

・これまでは事業活動の中でコストをかけて環境活動をやっていたが、環境活動をすればコスト改善につながるという構造に変わってきている。例えば、断熱はエネルギー効率を上げるためという環境面で評価するだけではなく、医療費の削減や健康度が上がるなど市民の健康や福祉のためにという提案ができる。課題解決が複数に渡るので、市民への貢献度が上がる。評価方法についても、視点をずらしてやってみれば良いのではないかと思う。

⇒環境基本計画の中では、環境面での課題解決についての記載になるので、医療や健康面など付随するものとしてはやはり総合計画での記載になると思われるが、SDGs のアイコンをつけることで対応できるのではないかと考える。

・市民ワークショップのやり方についてはどのように考えているのか。前回の改訂版策定の際は全体会議や分科会などかなりの回数が開催され、市民ワークショップで出された意見を変えられず非常に左右された。取りまとめについてもコンサルの力量によるところが大きいと思われる。

⇒前回の市民ワークショップでは課題抽出から施策検討まですべてやっていただいたが、次回は市民の生の声を聴く場として、市民アンケートと同等にご意見をいただく手段であると考えている。奈良市の環境についての課題を挙げていただき、将来の奈良市の環境について広くご意見をいただく場である。市民ワークショップに足を運んでくださる方だけではなく、来られない方のご意見をどう吸い上げるかについては課題だと考えている。

・18歳以下の中・高・大学生の意見を聞く場が重要であると考えている。

・中・高校生と大人などカテゴリ別に分けてアンケートを実施すれば広く意見を聴取できるの

で、市民ワークショップをしなくても良いのではないか。

- ・アンケートだけでは市民の本当の声が聴けないのではないか。市民の直接の声を聴きたい。
- ・市外の方向けのアンケートを実施しても良いのではないか。奈良市に住んでいる人を対象としたアンケートに加えて、期待される奈良というものが補強されるためのアンケートになると思われる。
- ・環境に関して無関心な層が多いのではないかとと思われるため、いかに市民を巻き込むのが課題である。

⇒中間見直しの際は、中学生アンケートを実施した。学校向けに実施する場合は、市内の中学校・高校・大学の全部で実施する経費はないので、絞り込んで実施する必要がある。

環境に関するアンケートは回答率が高い傾向にある。中間見直しの際に実施したアンケートでは回答率が5割以上であった。

・吹田市まち・ひと・しごと創生総合戦略でワークショップが実施された。2030年、吹田市をどんな市にしたいかというテーマで、コーディネーターは阪大、公募市民や事業者、阪大学生などが参加した。エネルギーや環境などに関する良い意見が出され、目標を掲げて、そのために何をすべきかという議論がなされた。大学とうまく連携するということも重要だと思う。

⇒ワークショップを実施するに当たっては、市民公募はもちろんのこと、大学と連携して大学生の参加を促すなど検討していければと思う。

<まとめ>

評価方法については、指標となる項目の選び方が重要であり、主体性及び多様性を担保できるような評価方法を確立する必要がある。また意見聴取方法については、アンケートや市民ワークショップなどで若者も含めた様々な世代から意見を聴取し、上手く活用することが重要である。